

ひめゆり 通信

第159号

2020年3月1日号

<http://hozanji-wel.org/>

主な目次

- 巻頭言 1
- 各施設からの報告 2
- 法人研究発表会 10
- 法人リーダー研修 12
- 栄養士研修 13
- 全国表彰 14
- 被災地復興を願って 16
- 法人年頭連絡会 16
- 編集後記 16

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

「社会福祉とSDGs」

宝山寺福祉事業団理事長 辻村 泰範

昨年のお正月、商工会議所の賀詞交換会で胸の襟に付けたピンバッジを自慢げに周りの人に見せている人を見かけた。虹のように色鮮やかに塗り分けられたドーナツ状のバッジで、これは国連に行かないと手に入らないものだと言われた。しかし何を意味したバッジなのかは当のご本人も詳しくないようだった。

後になってこれがSDGsのシンボルバッジであることがわかったが、確かに街のどこにでも売っているような代物ではなかった。彼の話は当たらずとも遠からじと言える。

エス、ディ、ジーズと読む。英語は省略するが「持続可能な開発目標」を表す英語の頭文字だ。日本政府の公式な解説では、「誰一人取り残さない」持続可能な多様性と包摂性のある社会の実現のため、二〇三〇年までを期限とする十七の国際目標を表している。十七の色に塗り分けられたリングがそのシンボルである。

二〇一五年九月の国連サミットで全会一致で採択されたこの目標は、持続可能な開発目標と訳してしまえば少しニュアンスが変わってしまうような気がする。経済界の人々の多くがこのバッジをつけるようになった。目標の中に持続可

能な経済成長やインフラ構築、産業開発や自然開発という経済活動に直接結びつく項目も多く含まれているからだろう。この一年の間にバッジをつけている人が急激に増えた。かくいう私もその一人だ。ただし、経済界の人々とは些か視点が違うことを補足しなければなるまい。

近年の社会保障や社会福祉のキーワードは包括的ケアや共生社会という言葉だ。そこにはいつもある種の理想主義と現実社会の矛盾を抱え込んでしまう。福祉の制度や仕組みの持続性を論じると常に負担と給付や受益の問題が露呈する。貧困と格差はグローバルな問題ではあるが、自分の周りの小さな地域においても見過ごせない課題になっている。サミット



SDGs バッジ

トで取り上げられたほどグローバルなまり地球規模の問題ではあるが、多様性と包摂性は社会福祉の世界では昔からの主要なテーマだ。地域包括ケアとは多様性と包摂性をめざすケアシステムだと言っている。誰一人取り残さない」とわざわざカッコ書きで表記されている。そのことは、社会福祉の本質だと考える。

私が共鳴するのは実にそのことなのだ。差し上げたバッジを襟につけている施設長を見ると意図が通じていると知って嬉しい。しかしながら社会福祉も経済活動と無縁ではない、ある意味では経済活動そのものである。環境問題や気候変動、温暖化という差し迫った問題やエネルギー問題とも深い関わりがある。そういった意味では国連が提唱するSDGsを我々自身の課題として問い直さなければならぬ。我々の事業もこのような視点からも評価しなければならない時代だ。



あくなみ苑

お話しする時間

介護主任
松本 直大

業務のIT化がこの業界で謳われております。そもそもITとは何の略なのか？調べてみると「Information Technology」の略で、日本では「情報技術」と訳されます。あくなみ苑でも、タブレットを使用して、介護記録を行なう為の準備を進めています。ただ、タブレットを『使う』だけでは意味がありません。記録を効率化出来なければ、使う意味がないのでそこはしっかりと決めていかないといけません。

そして、効率化して作り出せた時間を、ご利用者の為に使う。お話しする時間が増やせるだけでも、大

高齢者施設より

きな価値はあると考えます。日々の生活の中で、他愛のない会話は何よりも大切で、信頼関係を築き、生活の糧になると思います。会話が出来なくても、目線を合わせて話しかけるだけでも、想いは伝わるはずです。

施設のご利用者、家族様を対象とした「あくなみカフェ」や、認知症カフェとしての「オレンジカフェ」など、ご利用者はもちろん、家族様との交流を深める。そのような『お話しする時間』を、大切にしていきます。

梅寿荘居宅支援センター

介護支援専門員に求められる役割

介護支援専門員
林田 左知子

2025年には75歳以上の後期高齢者が4人に1人の割合になると予想されます。昨年更新研修を受講し、介護支援専門員に求められる役割の大きさを痛感しました。少子高齢化が進み、介護保険や医療保険などの公費だけで高齢社会を支えるのは難しくなっ

ています。高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生活をし、人生の最後まで持続できるようにサポートするのが、地域包括ケアシステムです。介護支援専門員にも要介護者の自立支援、要介護状態の軽減、又は悪化の予防、要介護状態になっても社会や地域とつながり参加できるようなケアマネジメントが求められています。私たちはこの包括ケアシステムの中核となる存在です。多職種、多機関との連携を取りながら、固定したサービスにとらわれることなく多様な社会資源を活用し、自立支援を目指すケアプランを作成する意識が大切と思います。

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

地域における環境整備

看護師
長谷川 香織

近年、2025年問題から2040年問題へと移行してきており、社会保障や労働者人口の不足が課題として大きく問題視されています。高齢者が、介護が必要になっても、住み慣れた地域や住まいで尊厳ある自立した生活を送り続けるにはどうしたらいいのか。仕組みづくりを全国市区町村で試行錯誤されています。

生駒市でも第2層協議体（自治会・老人クラブ等）

や地域住民と、個々の高齢者が抱えている困りごと等を一緒に話し合う「地域ケア会議」を開催することにより、自立支援を実現するために必要な資源を介護保険に限定せずに広い視点で探していく機会を設けています。地域資源が豊かになると自立支援の方法も豊かになる観点からです。その中で浮き彫りになった、地域に不足している資源を『つぶやき』としてセンターに持ち帰り、各圏域の地域特性に沿った地域づくり・資源開発に役立てるべく情報を集めて展開方法を模索しています。

地域の住民と力を合わせて住みよい環境を作っていくことで、いつまでも住み慣れた自宅で暮らし続けることが実現できるように努めてまいります。

梅寿荘デイセンター

一歩前へ

生活相談員
中井 耕大

「歩けるようになりたい。」

自宅ではベッド上で生活をされ、ご自身で立つことが出来ず、移動は車椅子を使用されている方が仰っ



しっかりとお支えます。

た言葉です。

デイサービスのご利用中、座る姿勢が不安定であったため、ティルトやリクライニング（身体を傾けること）の出来る車椅子を使用されていましたが、椅子に座る事に取り組んで頂きました。車椅子から椅子へ移る際には、少しでも足に力を入れて立っていただく事を促しています。また、ベッドから起き上がる際、足をベッドから下ろし身体を起こすお手伝いをさせていただいていましたが、動作をお伝えしご自身で起き上がる事に取り組んで頂いています。

今では、少しの間立つ事が出来るようになられ、座る姿勢も安定されています。また、ほぼご自身で起き上がるようになられました。今後も継続的に、この方の「歩く」という希望に寄り添い、一緒に一歩を踏み出せるよう努めたいと思います。

今年度、梅寿荘デイセンターでは、機能訓練の強化を事業計画に掲げ取り組んで参りました。至らない点、不十分な事もまだまだ多くありますが、来年度もしっかりと目標設定をした自立支援、運動機器を使用したトレーニングやリハビリ職による個別機能訓練等を通して、お一人お一人の心身機能維持、向上に努めて参ります。

デイセンター 寿楽

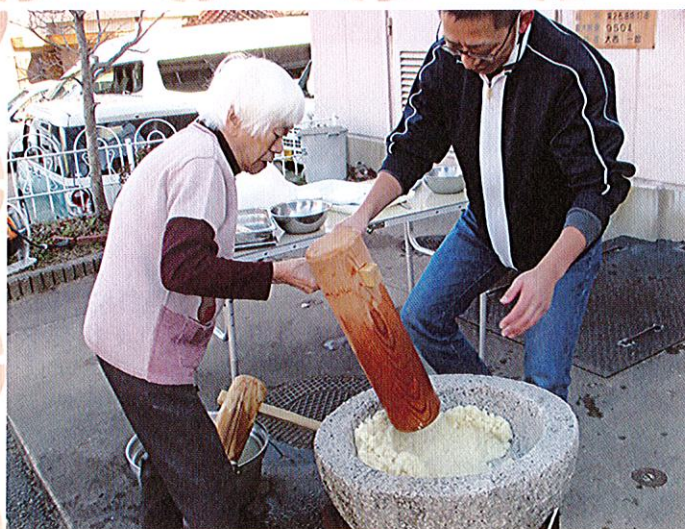
地域に根付いた施設を目指して

主任生活相談員
中島 淳

デイセンター寿楽では毎年10月に秋祭りを開催し、そこにご利用者をはじめ地域の皆様をご招待しておりましたが、今年度は有里町内の下水管工事の着工により、毎日のように施設の前で工事が行われていましたので、秋祭りを開催する事が出来ませんでした。地域との交流の機会として貴重な行事でしたので、職員会議で何か施設として出来る事がないかを検討した結果、年末のお餅つき行事に有里町の自治会を通して子ども会を招待する事となりました。

初めての取り組みでしたので不安もありましたが、地域の子もたちやその保護者を含めて30名の方が参加して下さい、デイサービスのご利用者と一緒に重たい杵を持ちながらお餅をついて、出来たてのお餅を召し上がって頂き、笑顔が多く盛況のうちに終わる事ができました。

デイセンター寿楽は有里町の住宅街にある介護保険施設ではありますが、その役割が高齢者介護だけにとどまらない事を今回の経験を通して実感する事ができました。秋祭りという行事内容にとらわれる事なく、地域との交流が図れる為の取り組みをこれからも企画し、より地域に根付いた施設を目指していきたいと考えています。



お餅つきの風景

延寿

働きやすい環境

介護職

佐野 奈央

先日、「ぱーふる mama」という雑誌の取材を受けさせて頂きました。

こんなことは人生で一度あるかないかの事なので良い経験をさせて頂きました。

恥ずかしながら周りの反響も良く、「写っていたね」と声を掛けていただくこともあり、思い切って引き受けて良かったです。

私は三回の産休、育休を取得させて頂き、現在上

は小学生から下は二歳の子供たちを育てながら仕事をさせて頂いています。長い期間休ませて頂くたびに、やっぱりこの延寿に戻ってきたい、子供たちに自分が頑張っている姿を見せたいという気持ちが強くなっていきました。

私が、長期休暇を取るたびに「周りの方々」にはご迷惑をかけたことだと思います。しかし、その「周りの方々」の支援によって、その都度戻ってくることが出来ました。戻ってくる際には、働き方の相談にも綿密に応じて下さりましてし、子供の体調不良時にも温かい言葉をかけて頂きました。本当に大変な時を支えて頂いた、かけがえのない「周りの方々」です。本当に感謝しています。

今後も「子育て世代」が働きやすい環境を継続するために、私の経験などを後輩に伝えたいと思います。また、職場の働きやすい環境づくりにも貢献できればと思います。

デイセンター 憩の家

ご家族の思いと認知症ケア

主任生活相談員

友國 和之

いつも私が思うことは、在宅でデイサービスをご利用されている認知症ケアは私たちスタッフだけの頑張りよりも「ご家族がいかに日々頑張っておられるか」ということを感じています。それを具体的に教えていただくために実施する予定にしていた家族交流会が、昨年はスタッフ体制の変化があり、あまり出来ませんでした。ご家族からのニーズがあった事も事実です。例えば新規のご利用者のご家族は「他の家族はどのようなことで悩まれているのだろ

う」とか、日々のケアについて「自分のやり方が間違っているのではないか」と一生懸命に介護されているにもかかわらず、そのように思っておられます。その気持ちをご家族同士で共感できる場所があれば、少しでも気持ちを楽に感じることが出来るのではないかと考えます。

私事ですが、新年を迎えてから自宅でPHP文庫の「先人の名言集」を読んでいたら「今の私はこれまでに会ったもの（人）の賜である」と記されている文章が目に入りました。その時に、たとえ今は認知症を発症されたとしても、輝かしい歴史を持っておられ、その輝いていた時代を上手く引き出すことが出来れば、また、その技術を養うことが出来れば、私自身にも磨きをかけることになると思います。日々支援に向きあっておられるご家族や、輝かしい歴史を持っているご本人においても私にとって大切な出会いと考えております。

梅寿荘

今年度の出来事

施設長

松岡 利和

事務機能強化をテーマに今年度の出来事、地方選と国政選の不在者投票、改元と大型連休、消費税増税、特定処遇改善加算開始などに対応し、それぞれをクリアすることができました。福祉施設として、まほろば幸いネットのレスキュー活動、奈良県で編成する災害時職員派遣（DWAT）への職員登録をおこないました。専門領域では研究会の当たり年で、近畿職員研究会議（分科会発表）、県中堅職員アドバンスコース（事例発表）、県職員研究会議（分科会発表）、

法人研究発表会でのポスター発表と各研修会にて発表をおこないました。利用者向け行事では、七夕会、夏祭り、敬老会、遠足、忘年会などを開催しました。利用者自身の嬉しいニュースとして生駒市最高齢になられた方、秋の叙勲を受けられた方がありましたが、残念な出来事として、このお二方が共に天寿を全うされてしまいました。施設設備では電話機・パソコンの一斉更新、厨房機器のプラスチックの更新など中規模な設備更新をおこないました。

ざっと列挙するとこれだけのことがあり、まだこれからの予定もあります。今年度を振り返ると他にも多くのことがあって、「こんなにも色々なことが」と驚く一方で、「一年という時間はあっという間だった」という感覚も覚えます。今年はオリンピック・パラリンピックという世界的なイベントも予定されていて、新時代ムードの中で新しい一年を味わいたいと思います。

いこまこども園

成長を育む連続性の保育を大切に

園長

米田 恵美子

1月うまれの誕生会での一場面です。「ぐー、ちょき、ぱーで、ぐー、ちょき、ぱーでなにつくろう♪なにつくろう♪」につづいて「右手はぐーで、左手もぐーで鏡餅（重ねる）」次のパターンは、「右手はぐーで、左手はぱーで初日の出」次に、「右手はちょきで、左手はぐーでお雑煮」、そして「右手はぱーで、左手もぱーで初詣（柏手と合掌）」と、普段の子ども達の好きな手遊びを、替え歌にしていました。一緒に遊びながら感心しました。替え歌によるアイデアによって、会場内は和やかなお正月の様子へと変わりました。

一年の始まりを迎えると、教育・保育の現場は終盤へと向かいます。それぞれのクラスではひと回り大きくなっていく子ども達の成長を見守りながら次年度へとつないでいきます。中でも、年長児は午睡もなくなりいよいよ小学校就学にむけての準備期間となります。

1月からは体育遊びや伝承遊びを取り入れ、チャレンジカードを作り段階を経ながら挑戦して、色々で

児童施設より



きるようになってきたことが増えていきます。今ではほとんど見られなくなってきた「コマ回し」も課題の一つにあります。それぞれの種目を、友だちと教えあい、励ましあいながらのチャレンジで、冬の園庭も大いに盛り上がり活気があります。

幼保連携型認定こども園であるいこまこども園では、一人ひとりの入園時期や在園時間の違いがあります。それらに配慮し、各年齢の積み重ねの保育の連続性を大切にしながら、今年度から来年度へ、子ども達の一年一年を大切に繋がりのある保育を行っていきたいと思います。



ぐーとぱーで初日の出



土俵入り



小学校へ遊びに行きました



紐をまく練習中



チャレンジカード

愛染寮

もうすぐ、春ですね…

主任保育士
中尾 智子

今年の春、高校3年生が6人旅立ちます。大学に入学する子が3名、専門学校に行く子が1名、就職する子が2名です。

大学と専門学校に行く子たちは行く所を決めるまですごく話し合いました。ただ大学や専門学校に行くというだけでは現実として難しく、これから自分でアルバイトをし、奨学金を頂いて生活しながら大学に通わなくてはならないからです。そのために何

の目的をもってそこに行きたいかを話し合い、たくさんの奨学金を申し込みました。無事に希望する所に全員合格することができいくつか奨学金も頂ける事になりました。就職する子達も自分の希望する所に決まり、高校生活では、右往左往して途中で投げ出してしまうのではないかと心配した子もいましたが、全員希望通り決まって良かったです。次は、皆が違う地域で生活するので住む所を兄ちゃん、姉ちゃんと一緒に探す事になります。この子達を見送った後は、こども園に入園する子が3名、小学校入学1名、中学入学1名、高校生入学が1名とワクワクドキドキの春を迎えます。

愛染寮の子どもたちはたくさんの方たちの応援のおかげで元気に過ごしています。皆様本当にありがとうございます。



児童発達支援センター 仔鹿園

災害から子供を守る

園長
岡本 とも子

今年度はほんとに自然災害の多い年だったと感じます。年々その脅威は増大しているようにも思います。仔鹿園でも災害のマニュアルの土砂災害・風水害に

関してのマニュアルを再度見直し作成をしました。

秋口に突然、訪問された方が地震計の設置を申し出られました。「国立研究開発法人産業技術総合研究所、活断層・火山研究部門」の名刺を頂きました。

なんでも奈良盆地東縁活断層帯の上に仔鹿園があるらしく、小さな地震を捉えるための地震計と説明されました。今、駐車場に設置されデータはつくばの研究所に送られているようです。この時代、不意に襲ってくる災害に少しでも意識をもって安全に子供たちを守りたいと願うばかりです。



でいあー

一歩ずつ

センター長
森山 貴司

でいあーでは様々な事業をしています。この一年の活動を振り返ってみると、一番多いのは幼児から成人までの相談支援で1か月に300件を上回る直接相談です。内容も子どもとの関わり方、医療機関での受診、不登校、教育、就労、引きこもり、触法など様々な相談があります。次に多いのがケース会議や支援会議、各種協議会への参加で、県内各地の事業所や多職種と連携を図ることで支援を充実させています。そのほか発達障害の啓発や当事者支援、支援者の専門性を高めるための各種研修会や講演会を企画して、実施しています。

さらに新たな事業として、2年前から取り組んでいるのが市町村での相談窓口の設置です。全国で年々発達障害の相談・支援が増加していることから、3年前に厚生労働省から発達障害における支援として「身近な場での支援」「ライフステージを通じた切れ目のない支援」などが提示されました。そこで本県でも昨年度から身近な場所での支援ができるように、市町村相談支援を新たな事業として行っています。今年度も市町村職員を中心に研修を行ったり、巡回相談の活動を進めたりしてきています。県内の発達障害の相談が市町村基点となるまでには、まだまだ時間がかかりますが、一歩ずつ歩みを進めていこうと思います。



市町村職員研修会

いごま乳児保育園

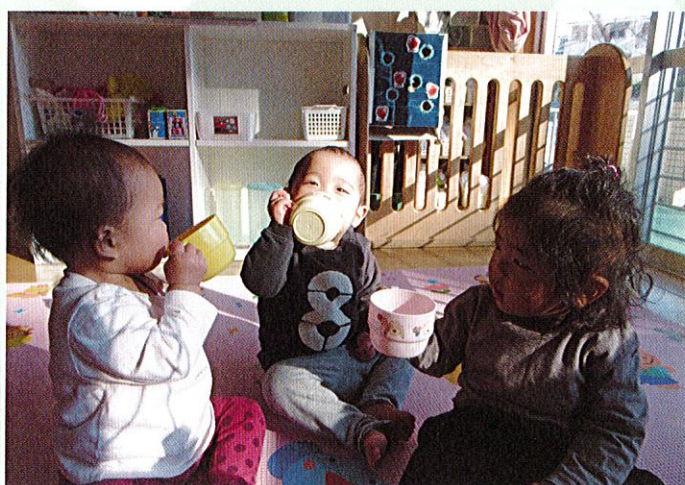
「受容」と「承認」

主任
喜多 由希子

奈良県保育士会の研修会があり、今回初めて「育児担当制」についてのお話が聞けるとあって不安と緊張の思いだった。しかし聞いていくうちに、講師のお話されることと自分たちが学んできたことが同じであったことで一先ず安心感を得ることが出来た。担当制の意義や目的、特定の大人との愛着形成の重要性が唱えられ、そのことが社会性の発達や他者への理解に繋がるということも大きく同意出来る言葉だった。保育の方法として3つ挙げられ、①育児担当制②グループ担当制③場所による担当制を並べた時に、本当に①の方法で保育が出来ているのかと不安になる。完璧な保育を目指しているが、固く考えすぎたり、思いがすれ違ったりすることで上手くいかない時の方が多いのではないかと思う。担当制は形だけをいうのではなく、そこには子ども一人一人を大切にかつ愛おしく思う人間的な気持ちが備わっていることが重要と私は思う。さらに、講師の言葉で最も心に残ったのは、「受容と承認」

という言葉だ。一斉保育の中では、皆と同じスピードで出来ることや同じ考えを持つことが称賛される傾向にあるが、それだけでは子どもの中の「自分」は育たない。褒めることも大切だが、子どもの思いを受容し、「それがしたかったのね」という承認の言葉が必要なのだという事、育児担当制にはその「承認」する機会が多く含まれていることを改めて学び、他の職員へ伝えていくことの大切さを感じた。

難しく考えず、子どもを中心に置いて、出来ることを着実に進めていくしかないのだと思い、これからも子どもたちに温かな眼差しで日々接していきたい。



かんぱ〜い！あ〜このお茶おいしいわねえ

いごま乳児院

乳児院の働き方改革

院長
辻村 万里子

今年度から世の中は働き方改革で、お正月三が日はお休みする店舗が増えました。海外へ飛び立つ人達のニュースを横目で見ながら、乳児院では年が改まるという節目にこだわって、大掃除をしたり、厨房では工場のようにおせち料理が出来上がり、徐々にお正月の設えが出来ていきます。今日から明日に変わっていくだけなのに。

何らかの理由で養育できない家庭のもう一つのお家として、乳児院では乳幼児をお預かりしています。今年は十五人の児たちと共に年越しをしました。職員は交代勤務で二十四時間三百六十五日を繋いでいます。どの児にも、ひとりのお母さんがいつもそばに居るように「あーちゃん」は見守るのです。

時間で切って、「ハイさよなら」とはいかないのです。病児や後追いする児を置いて帰る職員は、後ろ髪

を引かれながら家路につきます。その職員にも家で待つ我が子がいます。

施設の管理者としては、とても悩ましいところです。乳児院は預かる児たちの権利を守り、育む大切な責任があります。しかし、職員一人ひとりもまた大切です。職員たちは限られた時間の中で、児に寄り添い少しでも良い関わりが出来るよう、自分たちの働き方の無駄を見直そうと取り組み始めました。仕事はいくらでも限りなく生まれてきます。

職員たちの取り組みが実って、児にとっても職員にとっても居心地の良い「もうひとつのお家」となるよう願っています。



お食い初め

いっぽ

身近な所にこそ、学ぶべき事

児童発達支援管理責任者
長野 智子

令和元年の10月に、いっぽの職員総勢9名は2班に分かれていこま乳児保育園を見学させていただきました。ここ数年、職員研修の一環でわが法人の施設を改めて見学させて頂いています。知っているようで、知らない自分のいる法人の施設それぞれの特色や取り組みは大変興味深く、職員は様々な刺激を受けて、どうやらやる気スイッチが入るようです。今回改めて勉強になったのは、定型発達のお子さんの

育つ道筋を、特に0歳児や1歳児はこんな事も出来るのか！の気づきが沢山あった事です。当たり前のように、障害のあるお子さんを支援する上でこの当たり前を知る事がとても大切だと強く感じました。又、職員の方々の連携プレーもとても参考になりました。身近な所にこそ学ぶべき事はあると思い、来年度の施設見学を職員一同、今から楽しみにしています。



獅子舞さんのお口、大きい〜！



あすかの保育園

振り返ることの大切さ

園長
小林 美香

子どもたちの元気な声が響き渡るにぎやかな朝。正門横の大きな桜の木をふと見上げるともう芽が膨らみ始めています。大地にしっかりと張った根っこから栄養を十分に吸収し、毎年奇麗に花を咲かせることは本当に凄いなと思います。さて私たちの保育はどうか？地に足を付けて保育ができていますか？日々忙しくしていると中々自分自身の保育を

しっかり振り返る機会が持てません。今年度は7月、12月の総括で『自己評価チェックリスト』を用い、自分の振り返りを行いました。7月は同じ分野の人同士集まり、お互いのチェック項目について保育を通して確認しあいながら話し合いを持ちました。12月は7月と比べてどうなったか？まず個人でチェックしてから、別の分野の人たちで集まりグループワークをしました。自分の頑張ってきたところや、うまくいかなかったところなどを振り返り、また別の分野の人から見ての感想等、色々な側面から話し合うことで、自分自身を改めて見つめなおす機会となりました。この振り返りをどう保育に活かしていくのかが大事ですが、まずは職員一同『ワンチーム』となり、一步一步目の前の子どもたちが健やかに育つために歩んでいきたいと思っています。



平城児童センター

地域とともに

センター長
徂徠 おさむ

センターでは毎年周辺の十九の自治会に広報用チラシを配布しています。

運営や活動の状況等について自治会員の皆様に回覧を依頼するなど情報提供に協力を得てきました。また施設、設備や駐車場の提供なども行い地域との協力、連携に努力しています。

昨今規模の大きい災害が起こっています。児童館ガイドラインでは地域との協力関係の構築とともに防災対策については定期的な避難訓練を実施するとともに

「災害発生時には、児童館が地域の避難所となることも考えられるため、必要な物品等を備えるように努めること。」とされています。

従来からAEDや自家発電機などの備品等を充実してきましたが九月に小規模な防災倉庫を設置しました。今後とも継続して備品等の整備をしていきたいと考えています。

地元の歌姫町自治会から避難所が遠方にあるので自治会からセンターを災害時に利用できないかとのお話がありました。このため施設の有効利用について検討し昨年十二月に歌姫町自治会長と「災害時における避難所等施設利用に関する協定書」を締結しました。地震・風水害等の災害時に機動的にセンターの機能を幅広く地元の方に利用できるようにしました。

今後とも地域のニーズに合わせて柔軟に運営し、地域に開かれたセンター作り目指していきたいと考えています。

あすなる

誕生会

主任保育士
佐伯 佐知

こども支援センターあすなるの毎日通園クラスでは、毎月合同で誕生会を開催しています。

誕生月の子どもたちは、自分がセレモニーでみんなの前に出てお祝いしてもらうのを楽しみにしている子やみんなに注目されることにドキドキして緊張していたり様々です。

おたんじょうびおめでとう！の歌やカードのプレゼントをもらって、大きなケーキのろうそくの火を「フーフー」と真剣な表情で吹き消します。

保護者の方やお友達や先生に見守られ、誕生会というイベントを終えひとつ大きくなった姿はなんだか誇らしげです。

そして、セレモニーの後にみんなで遊びますが、

七夕やクリスマスや節分など季節の行事を合わせて行う月もあります。

いつもと違う衣装を着た先生たちの寸劇が始まると、立ち上がり目を輝かせて拍手で喜んでくれる子や先生のあまりの迫力に涙ぐむ子もいます。

短時間の練習でも本番は、歌や踊りにアドリブを入れるなど、新喜劇や劇団四季も真っ青なほど、あすなるの先生たちはなかなかの名優ぞろいです。名演技に観客の職員も涙を流して大笑い、そんな大笑いの先生を見てまたまたつられて笑う子どもたち。

「あーたのしかった」と満足そうにバスに乗る姿を見て心が温かくなります。

「生まれてきてくれてありがとう。」

お父さん、お母さん、先生たちからみんなへこの言葉を贈ります。



子ども達はニコニコ
職員は大爆笑のクリスマス会でした



極楽坊保育園

創立70周年記念作品展

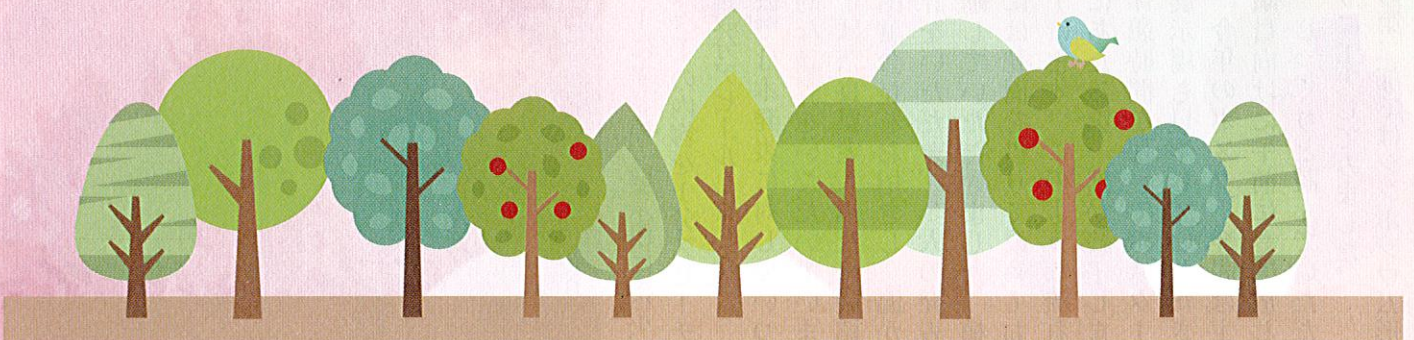
園長
辻村 泰聡

昭和24年、児童福祉法における保育所として認可を受け事業を開始してから、今年度は70周年の節目の年を迎えました。1年間の行事を通じて、園児や保護者の方々と節目の年をお祝いしてきました。11月の作品展では、70周年を記念した作品展示を行うとともに、ホールでは奈良教育大学ウインドアンサンブルによるミニコンサートを行いました。子どもたちがよく知っている曲を、普段目にするのこない楽器の生演奏で聞くことができ、会場は迫力のある音色に包まれていました。子どもたちも、ご家族の方と一緒に、

歌を口ずさんだり曲に乗って体を動かしたりして楽しんでいる様子でした。



いろんな楽器の音色を楽しみました



第23回 法人研究発表会

あなたらしさをいつまでも

松岡利和

恒例の研究発表会を令和2年1月26日(日)に生駒セイセイビル(コミュニティセンターホール)で開催しました。今回は高齢者部門の発表で、特に在宅サービス分野の研究に焦点を当て、大会テーマには「あなたらしさをいつまでも」を掲げました。これは令和時代に入り、リニューアルした法人高齢者理念の一文です。令和初の研究発表会について、当日の様子を経時的に紹介します。



辻村理事長による開会挨拶



発表風景 1

1つ目は法人の市内デイサービスセンター合同での研究です。40近いデイサービスセンターがひしめく市内で、団塊の世代が後期高齢者となる2025年を展望した取り組みでした。サービスマナーはもちろんホスピタリティ向上を目指して、合同研修会などを通じて法人内事業所相互のサービス向上を図った研究発表でした。2つ目はケアマネージャーの事業所、居宅介護支援センター



発表風景 2

です。愛称が人生会議となったACPについて、利用者やその家族、ケアマネージャー自身にもアンケートを実施し、各立場での認識を明らかにし、現状の課題を抽出。今後避けては通れないテーマとして、ケアマネージャーがおこなう取り組みの方向性を見出した研究です。3つ目に訪問介護の事業所はあとぼーとの看取りに関する研究です。在宅利用者の看取り事例の紹介と、実際にケアに携わるヘルパー一人ひとりの意識と知識の向上を図る研究で、在宅での看取りを更に実現していく期待を見出した内容となりました。これら本発表の次に、近年の発表会で定番になりつつある「ポスター発表」の紹介をおこないました。法人各施設で独自に取り組む活動を1施設1枚



ポスター展示場風景

のポスターにまとめ、展示場に掲示、このポスターの内容を1分スピーチ風に13施設分アピールしました。

発表会では本発表に対していつも客観的な講評をいただいています。今年も奈良県老人福祉施設協議会植田誠会長をお招きし、温かいご講評をいただき、3人の発表者を激励していただきました。植田会長には誌面を借りて改めてお礼申し上げます。このような流れで前半にあたる第一部が終了しました。休憩時間を使ってポスター発表の展示場も見学していただきました。今年のポスター発表は主に法人職員向けに午前にも開放しており、じっくりと読んでいただけるように工夫してみました。

後半の第二部ではシンポジウム形



第二部シンポジウム

式でテーマ「在宅での看取り」を増
上で意見交換するものとなりました。
老人福祉施設梅寿荘の松岡施設長を
コーディネーター役に、外部からは
生駒市健康福祉部の田中次長、生駒
メデイカルセンター訪問看護の堀井
所長、株式会社イカリトロボの門福
社用具専門相談員のお三方にご登壇
いただき、法人内の在宅サービス事
業所代表者も交え各立場から在宅で
の看取りの実際や情報提供をしてい
ただきました。終盤には会場の参加
者からも意見を求め、「在宅介護を
おこなう家族への支援機関は」など
活発な意見が飛び交い、他人ごとで
はない自分自身の課題として看取り
のことを考える時代であるという意
識が高められたシンポジウムになっ
たように感じられました。閉会に際

しては2月16日に開催の「ケアリン
ピック生駒」について大会実行委員
長である辻村理事長がPRをおこな
い、介護福祉への関心と理解を更に



会場からの質疑応答



植田会長の講評

第23回法人研究発表会 本発表

発表1 「2025年問題に立ち向かえ！」

～デイサービスセンター連携によるホスピタリティ向上への道～

発表2 「自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか？」

～アドバンス・ケア・プランニング(ACP)を実現するために
ケアマネージャーにできること～

発表3 「最後まで笑顔で寄り添う介護」

～在宅での看取りについて～

*資料冊子をご希望の方は法人本部までお問合せください。

高めていく機運に包まれました。
今回の大会では受付数285名の
参加をいただき、会場の定員数を超
えてしまい、一部で立ち見の方もあ
られました。ご来場いただいた皆様
には改めてお礼申し上げます。また、
ご登壇いただいた皆様、各方面から
のご協力をいただき有意義な大会を
開催できたことを感謝申し上げます。報
告とさせていただきます。

令和元年度 役員会報告

(令和元年9月～12月)

第4回理事会 令和元年12月12日

梅寿荘研修室

第1号議案

令和元年度第一次補正予算案に

ついて承認を求める件

第2号議案

運営規定その他の改正について

承認を求める件

第3号議案

処遇改善加算の申請に伴う職員の

賃金見直しについて

第4号議案

上半期事業概要について報告

第5号議案

理事長並びに業務執行理事の

職務執行状況報告



令和元年度 法人リーダー研修

第1回 令和元年9月5日(木)

第2回 令和元年10月16日(水)

第3回 令和元年11月26日(火)

法人内の職務階級に応じて開催している「リーダー研修」についての様子をお伝えします。3回にわたって実施した研修で、「チームのリーダーに求められる役割について学び、活気と意欲に溢れる職場づくりを目指す」をテーマに行ないました。

第1回

・仏教と福祉

・チーム・組織論

真言律宗総本山である西大寺を会場として実施しました。辻村泰範理事長の講話をお聞きしました。救済事業についてのお話を聞き、福祉に対する原点となる考えを学びました。また、本堂の参拝や光明殿での大茶盛など西大寺の歴史にふれる貴重な体験もできました。

午後からは、あくなみ苑田中将史施設長が講師となって、「チーム・組織論」について学びました。チームをまとめていくためのリーダーシップや実際の事例を使用したグループワークを通して、問題解決法についての意見交換を行いました。

第2回

・苦情解決の基礎

・チーム・組織論(人事考課について)

第2回目は、梅寿荘を会場に、2つのテーマについての研修を行いました。生活支援センターあすなる中井加苗管理者による「苦情解決の基礎」について学びました。苦情対応へのテクニクや事例をもとに実際に起こる状況を想定しながら、ロールプレイを行ないました。苦情に対して積極的かつ前向きに捉えることの大切さを教えていただきました。続いて「人事考課」について、あくなみ苑田中将史施設長より講義をして頂きました。人事考課の意義と一次考課者としての役割や活用手法について学びました。欠点を指摘するのではなく、部下の育成や能力開発を行うための視点を持つことの大切さを知りました。

第3回

・チームビルディング・ワールドカフェ

最後の総まとめとして、「ワールドカフェ」と呼ばれる形

式を用いて、参加者で情報交換会を行いました。ワールドカフェとは、その名の通りカフェのような空間を作り、リラクセスして話し合いを行えるようにします。またメンバーを変えながら、4〜5人のグループで話し合いを続けていき、話し合いで出たアイデアを横造紙に自由に書いていきます。「いいチームを作り上げていくリ

リーダー研修会に参加して

愛染寮 保育士 松本 冨加

今回の研修に参加するにあたって、リーダーとはいったいどんな人物であるべきなのか？理想のリーダーとはどんな人物なのか？将来リーダーになった時に自分はそのリーダー像に少しでも近づけるのだろうか？？など不安なことだらけでした。

実際に参加してみるとやはり、初回から研修内容のレベルが高く自分にはまだまだ出来ないことばかりだと思ってしまうました。しかし、回を重ねるごとに講師の先生や、既にリーダーを経験されている参加側の方の話を聞かせて頂くうちに、福祉を理解し福祉のプロであるという意識を持つことの大切さや、自分の意見を持ちつつも、周囲の意見にも耳

ダーとして、あなたはどうかありたいですか？」というテーマに向かい、活発な意見交換を行いました。日頃メンバーと行う挨拶や雑談などコミュニケーションから信頼関係を気づき、リーダーが「こういうチームにした」とメンバーに伝えていくことが大切であることを学びました。

を傾ける姿勢などリーダーとして大切なものを知ることが出来ました。いつリーダーになる時期がやってくるかは分かりません。ですが、リーダーになった際には、福祉職のプロであるという事を忘れることなく、チームを導けるように研修会で得たものを一つでも多く活かしたいと思えます。



栄養士研修

令和元年度法人調理実習研修を終えて

極楽坊保育園 管理栄養士 辻森 萌

近年、自然災害による被害を目的に増加する機会が増えました。ライフラインが絶たれ、非日常の生活を余儀なくされた時にも、温かく、おいしい食事を提供するためにどうすればよいかは重要な課題です。

令和元年11月9日(土)にあずかる館にて「非常災害時の食事作り」をテーマとして、「令和元年度法人調理実習研修会」を開催しました。

各施設の調理師や調理員、栄養士、保育教諭が合わせて22名参加し、災害時に役立つ「ポリ袋調理」の実践と試食を行いました。また、災害時に役立つ設備や食品の紹介と、法人の各施設の備蓄食品についての情報の共有も併せて行いました。



調理実習では、班に分かれ、レシピを見ながら「ごはん」「みそ汁」「大豆とひじきの煮物」「高野豆腐の煮物」「羊羹(あずき・さつまいも)」と、各班で考案したオリジナルメニューの計6品を調理しました。「ポリ袋調理」とは、ポリ袋の中に食材を入れ、空気を抜いて口を結び、湯を沸かした鍋に入れ湯煎する調理方法です。調理の際には、災害によって電気・ガス・水道が使用できない状況を想定し、近隣施設(愛染寮・いこま乳児保育園・いこま乳児院)の備蓄食材を使用しました。例えば、「ごはん」はお米と水をポリ袋に入れ、ポリ袋内で30分吸水を行い、沸騰後20分加熱し、10分蒸らしました。

この調理方法では、食材をポリ袋に入れるため、湯煎用の水は汚れず、使用期限の切れた水を使用することもでき

きます。また、1つの鍋で多種類のメニューを調理することもでき、資源の少ない災害時に役立ちます。

今回の研修を通して、少ない資源を活用する方法を知ること、おいしく温かい食事が作れることを学びました。実際に調理をしてみ、初めて気づくことも多く、普段から非常時の対応を考え、訓練しておくことの重要性も実感しました。今回の研修が各施設での災害対応を見直すきっかけになればと思います。



最後に、ご協力いただいた施設の方にお礼を申し上げるとともに、たくさんの方にご参加いただき研修会を開催できたことを感謝いたします。ありがとうございました。



全 国 表 彰

感 謝



極楽坊保育園

副園長 老田 紀子

このたび思いがけなく「瑞宝単光章」という大きなご褒美をいただきました。

昨年の12月13日に、皇居に参内し、天皇陛下に拝謁、お言葉を賜りました。昨年は、新天皇が即位され、新たな元号に変わった特別な年でした。そして、極楽坊保育園創立70周年、という節目の年でもあり、忘れられない嬉しい受賞となりました。

お知らせをいただいた時は、私にいただけるだけの仕事でできていたのだろうか…と嬉しさよりも戸惑いの方が大きく信じられない思いでした。しかし、皆さんに祝福していただき、この喜びを感謝と責任として心に刻み、有り難くお受けさせていただくことにしました。

私が今日に至るまでには、宝山寺福祉事業団をはじめ関係各位のご支援・ご指導が多々ありました。世間を全く知らない私が、ご縁をいただいた極楽坊保育園に務めさせていただいて四十年。実に人生の三分の二を保育園と共に歩んできた事になります。子ども二人を育てながらの仕事で、時には悩むこともありましたが、園長先生をはじめ職場の皆様に支えていただき、子ども達の笑顔に励まされて、乗り越えることも出来ました。長い年月、私なりに勤めさせていただいたのは、数知れぬ人々の、陰になり陽向になつたりのご支援や、ご指導をいただけたからの結果です。

幼児教育・保育の制度も社会の変化に伴い多様化しています。将来を託す幼児の重要な人格形成期に思いを寄せ、叙勲に浴した責任を決して忘れることなく、この喜びと責任を今一度胸に刻んで、残りの日々を歩んで行きたいと思えます。

有難うございました。

厚生労働大臣表彰を受賞して



極楽坊保育園

副主任保育士 中 美恵

法人でお世話になってからいつの間にか30年余りが経ち、この度厚生労働大臣表彰をいただきました。

初めて極楽坊保育園で保育士として子どもの前に立った時、キラキラした瞳の子ども達に見つめられ、ドキドキしたことを覚えています。慣れない環境に失敗の毎日、自信を失くし続けられるかなと悩んだこともありましたが、その度に温かい励ましの言葉をかけていただき、相談にのって下さった、代々の園長先生はじめ先輩の先生方、同僚、そして家族には感謝の気持ちでいっぱいです。また、子ども達の笑顔に支えられ励まされたおかげで、折れそうな気持ちを奮い立たせることができ、今日という日を迎えられるのだと思っています。

これからは、経験から得た保育の知識や技術を後輩たちに伝えることで、これからの保育を担ってくれる若い世代の人材育成に役立つように努めていきたいと思えます。

ありがとうございました。

皆様に感謝



極楽坊保育園

保育士 富士華恵

法人にお世話になって、三十三年が経ちました。異動や三度の出産・病気や退職と、いろいろな事がありましたが、昨年再び、法人とご縁をいただき、保育園で働けるという日々喜びを感じていました。

そんな中、「先生！良い知らせですよ。」と聞いて、本当に驚きました。このような表彰の機会をいただきありがとうございました。

これまで、沢山の先生方にご指導いただきかわい子ども達の成長を側で見ることができ、保護者の方々にも支えられ勤めさせて頂いた事に、心から感謝いたします。

時代と共に求められる保育の質も多様に変化していきませんが、先輩の先生方から受け継いだ『子どもに寄り添った保育』を、次の世代に伝えていけるよう、又、保育園がこちよい生活しやすい環境となるよう、微力ながら努めていきたいと思えます。

ありがとうございました。

令和元年度 法人永年勤続表彰

松岡 利和

（養護老人ホーム梅寿荘・施設長・20年）

岩井 香奈子

（梅寿荘地域包括支援センター・センター長・20年）

森本 公子

（梅寿荘デイセンター・センター長・20年）

林 祥子

（極楽坊保育園・保育士・20年）

木戸 巳貴

（極楽坊保育園・保育士・20年）

安西 貴志

（こども支援センターあすなろ・保育士・20年）

佐伯 佐知

（こども支援センターあすなろ・主任・25年）

長野 智子

（児童発達支援いっほ・児童発達支援管理責任者・30年）



全国レベル表彰受賞

○瑞宝単光章（令和元年5月）

家治 圭子

（いこま乳児保育園・園長）

○瑞宝単光章（令和元年12月）

老田 紀子

（極楽坊保育園・副園長）

○厚生労働大臣表彰

中 美恵

（極楽坊保育園・副主任保育士）

○厚生労働大臣表彰

富士 華恵

（極楽坊保育園・保育士）

○全国乳児福祉協議会会長表彰

吉田 京子

（いこま乳児院・副主任）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

堀本 卓史

（特別養護老人ホーム梅寿荘・介護職員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

植田 昌樹

（特別養護老人ホーム梅寿荘・介護職員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

今中 大介

（特別養護老人ホーム梅寿荘・介護職員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

今倉 澄子

（特別養護老人ホーム梅寿荘・看護師）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

窪田 洋平

（特別養護老人ホーム梅寿荘・調理師）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

田中 泰子

（特別養護老人ホーム延寿・主任介護職）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

飯塚 耕平

（特別養護老人ホーム延寿・生活相談員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

中島 裕允

（特別養護老人ホーム延寿・介護職員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

黒葛原 厚子

（デイセンター延寿・生活相談員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

澤田 百合子

（デイセンター延寿・介護職員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

西倉 美佐子

（居宅介護支援センター延寿・介護支援専門員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

兼澤 依子

（居宅介護支援センター延寿・介護支援専門員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

飯塚 福子

（居宅介護支援センター延寿・介護支援専門員）

○全国保育士会会長感謝状

仲井 史佳

（いこまこども園・保育教諭）

○全国保育士会会長感謝状

林 祥子

（極楽坊保育園・保育士）

○全国保育士会会長感謝状

木戸 巳貴

（日本保育協会会長表彰）

○日本知的障害者福祉協会

知的障害者福祉事業功労者表彰

稲田 桂子

（仔鹿園・主任保育士）

○日本知的障害者福祉協会

知的障害者福祉事業功労者表彰

新谷 由里

（仔鹿園・栄養士）

○日本知的障害者福祉協会

知的障害者福祉事業功労者表彰

辰巳 厚納

（仔鹿園・運転手）

○日本知的障害者福祉協会

知的障害者福祉事業功労者表彰

辰巳 厚納

（仔鹿園・運転手）

被災地復興を願って

こども支援センターあすなろ センター長 西野 敦

国歌にはそれぞれ意味があります。フランスは「ラ・マルセイエーズ」で「・・祖国の子らよ 栄光の日が来た！我らに向かって 暴君の 血まみれの旗が 掲げられた・・」という革命歌。中国は「義勇軍行進曲」で、「・・我々民衆は心を一つにして 敵の砲火に立ち向かって前進せよ・・」というもの。米国は「星条旗」で、「・・我々は誇り高く声高く叫ぶ・・砲弾が赤く光を放ち宙で炸裂する中 我々の旗は夜通し翻った・・」で、これもまた勇ましい歌詞で何れも自国のために立ち向かう、戦う、愛国精神が浸透するような国歌になっています。

一方、日本の国歌「君が代」は「古今和歌集」にある「賀歌」（詠み人知らず）で、平安時代は年賀の歌として歌われていたそうです。「君が代」の君は、主人、家長、友人、愛人などを意味する二人称、三人称で幅広く使われています。千代に八千代に＝永遠に、いつまでも末永く。さざれ石の巖となりて＝固

い絆で、小さな石が大きな岩となる位の長い年月。苔のむすまで＝末永く長い年月という意味で、他国の国歌にはない平和と繁栄を願う歌詞です。

日本人は、大きな災害や苦境に陥った時にも国民が美しく心を寄せ合い、互いに協力し合って難関を乗り越えていく。そんな国民性を持つ民族だと思います。

今回、台風19号で大きな被害に遭われた方々に少しでもお役に立てればという思いで、全法人職員で募金活動を行い、50万円の義援金を全国社会福祉法人経営者協議会に寄附させていただきました。更に乳児院では、これに加えて17,500円の義援金を寄附致しました。金額は僅かですが、法人職員が心ひとつに復興への熱い願いを込めて集めたものです。被害に遭われた皆さま方の一日も早い復興を心よりお祈り致します。

法人年頭連絡会を開催

養護老人ホーム 施設長 松岡 利和

年頭連絡会は、1年の始まりに際し、法人内各施設の中核を担う職員が集まり、辻村理事長の年頭の訓示を直接に伝えていただき、親睦を深める定例会です。今年は1月18日（土）にイリスあやめ池にて開催しました。

この日は和暦で表現すれば、^{かのえね}庚子令和二年睦月十八日であり、干支でいう庚子は、新しいことが始まる1年を象徴していることからお話いただきました。新年でもあり、令和という新時代のスタートでもあるこの年に、理事長がイメージする福祉事業の1つの姿としての「ちょうちん理論」を再確認しました。これは法人理念である「興法利生」を理論や実践でつないだ（ちょうちんのような）形、そこに情熱の火を灯し、これをかかげて新しい道をも切り拓いていく我々の仕事の在り方を、ちょうちんを掲げた人の姿になぞらえたものです。令和時代の新たな福祉事業を展望するための基本的な姿勢を改めて教示いただきました。

さて、年頭連絡会は普段、別々の事業所でそれぞれの仕事をおこなう我々が一同に会する機会でもあります。相互に親睦を深め、互いの事業のことなどを語り合う会食が引き続きおこなわれました。新しい1年に向けて英気を養う意味で、その年の

担当施設による余興などもあります。今年は梅寿荘が担当にあたっており、「チャレンジ」をテーマに余興を披露。各施設長が用意したプレゼントの抽選は、今年最大のイベントであるオリンピックを題材にしたゲームでテーブルごとに競合してもらい、新年の福プレゼントを手にしてもらいました。



訓示をおこなう辻村理事長

編集後記

令和初めてのお正月が明け、早1ヶ月が過ぎました。「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」という言葉の通りあっという間に月日が経っていきます。1月より中国では新型コロナウイルス肺炎が蔓延し大変な事態になっています。

日本でも感染者が増え各施設におかれても心配は尽きることがないと思います。今年はオリンピックも控えているので早く終息してくれることを願っています。

(家治)